

Q：光学印象（デジタル印象）について教えてください。

A：令和6年度保険点数改正においても光学印象が保険収載された。光学印象（デジタル印象）とは口腔内スキャナーとPCを使用した印象法のことである。昨今、進化し続けるデジタルデンティストリーの中で、最も大きな変化を受けるのが補綴修復の分野であると言われており、デジタルとの連携がさらに患者に対する治療効果の向上に役立つのは間違いないであろう。

アナログ印象材はどれも確実に何らかの寸法変化を起こし、その結果が最終補綴装置に大なり小なり影響を与えるが、デジタル印象には寸法変化は発生しない。気泡やちぎれもなく、さまざまな研究結果から単冠および少数歯のブリッジまでのデジタル印象の精度は、従来のアナログ印象と同程度もしくはそれ以上とも言われている。

しかし、守るべき基本原則は従来法と変わらず、現時点では、縁下マージンに対する確実なデジタル印象を行うためには歯肉圧排が必要であり、確実に丁寧な形成とともに、従来法と同様に印象部位の臨床所見に対する確実な評価が不可欠である。

最先端技術が適用されるまで通常10～20年は遅れている歯科業界において、アナログからデジタルへの完全移行にはまだ時間がかかるだろう。しかし、私たち個人の好みに関係なく、デジタル印象が今後の主流になるのは間違いない。現在のデジタルデンティストリーがどこにあるのかを知り、情報収集を行う必要がある。今後、更なるスキャン精度の向上、スピードの高速化に加え、スキャナーサイズ、CADソフトの向上など、ハードウェア、ソフトウェアともに進化が期待されている。

参考文献：

著：須田剛義 土屋嘉都彦 木戸淳太 補綴・咬合の迷信と真実 EBD を採り入れた治療のアート&サイエンス：クインテッセンス出版株式会社